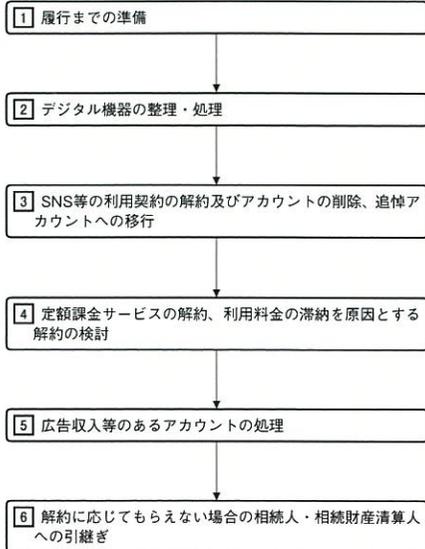


内容見本 (B5判縮小)

第6 デジタル遺品に関する準備及び履行

<フローチャート～デジタル遺品に関する準備及び履行>



1 履行までの準備

(1) デジタル遺品の特定・整理

デジタル遺品については、インターネット上のアカウントやデジタルデータ、オフラインでのパソコン、スマートフォン、タブレット、携帯電話、USBメモリ等の記憶媒体に保存されたデジタルデータ等多種多様なものが存在します。死後事務委任契約を受任する際は、デジタル遺品に関して何を委任事務の対象とするか特定するとともに、相談者（委任者）が自らの死亡後デジタル遺品をどのように処理してほしいと考えているかなど相談者（委任者）の希望を聞き取るなどして整理しておく必要があります。

インターネット上のアカウントやデジタルデータについては、サービス名、サービス提供事業者、ログインID及びパスワード等のアクセス情報やアカウントを特定することができるだけの情報を把握しておくことが必要となります。また、パソコン、スマートフォン、タブレット、携帯電話、USBメモリ等がどこに保管されているかを把握しておく必要があります。

対象となるデジタル遺品を特定した上で、相談者（委任者）が自らの死亡後デジタル遺品をどのように処理してほしいと考えているか、相談者（委任者）の希望に沿うことができるか検討していくことになります。

(2) サービス提供事業者・利用規約等の確認

インターネット上のアカウントについては、サービス提供事業者が定めている利用規約等によって、死亡後のアカウントの取扱いやアカウント削除の際の手続、アカウントの譲渡や相続の可否及びその届出方法（必要書類を含みます。）が異なることとなります。利用規約等において、任意の代理人に解約の権限がないとされることもあり得るでしょう。

相談者（委任者）がアカウントの譲渡を希望したとしても、サービス提供事業者が利用規約等で譲渡を認めないため、相談者（委任者）の希望を実現できないこともあります。

4 定額課金サービスの解約、利用料金の滞納を原因とする解約の検討

(1) 定額課金サービスの解約

相談者（委任者）が定額課金サービスのあるアカウントを保有している場合には、死亡後に定額課金サービスの解約手続をしないと定期的な支払が発生し続ける可能性があります。

相談者（委任者）が定額課金サービスについて死亡後に解約を希望する場合には、受任者において解約手続を行うことが想定できるでしょう。もっとも、利用規約等では、利用者が任意に定める代理人が解約権者として想定されていないために、死後事務委任契約を締結していたとしても、受任者では解約手続に応じてもらえない可能性があります。

このような場合に備えて、定額課金サービスの解約においても、事前に相談者（委任者）からログインID及びパスワード等のアクセス情報を聞き取り、相談者（委任者）の死亡後に受任者が自らログインして定額課金サービスの解約手続を行うことができるよう準備しておく必要があります。

サービス提供事業者から不正アクセスであるとの指摘を受ける可能性もあるため、死後事務委任契約を締結する際には、具体的なサービスの特定や当該契約に基づいてログインID及びパスワード等のアクセス情報を提供すること、これを利用して該当の定額課金サービスにログインして当該サービスの解約及びアカウントの削除を行うことを具体的に定めておくことによいでしょう。

(2) 利用料金の滞納を原因とする相手方からの解約の検討

サービス提供事業者の利用規約等によっては、任意の代理人に解約の権限がないと定めておかないと、解約手続を行うことができない可能性があります。

【参考書式22】 デジタル遺品に関する条項例

① 【SNS等の利用契約の解約及びアカウントの削除】

第〇条 甲は、乙に対し、本日、以下に定める本件委任事務を乙に委任し、乙はこれを引き受けるものとする。

- ① (省略)
- ② 甲が指定するSNSをはじめとするインターネット上で提供されているサービス（以下「SNS等」という。）の利用契約の解約及びアカウントの削除
- ③ デジタルデータの削除
- ④ 追悼アカウントの設定及び削除
- ⑤ 広告収入等のあるアカウントの削除及び報酬の受領
- ⑥ (省略)

第〇条 甲は、乙に対し、SNS等の利用契約の解約及びアカウントの削除に関する手続を委任する。

- 2 甲は、乙に対し、前項のSNS等のサービス及びアカウントを特定するに足る情報、SNS等のログインID及びパスワードその他のログインに必要な情報を別紙書面で提示しないし提供するものとし、これらの情報に変更があったときは、速やかに変更後の情報を提示しないし提供するものとする。
- 3 前項の情報の提示ないし提供を受けたにもかかわらず、乙においてSNS等の利用契約の解除及びアカウントの削除ができない場合、甲は、乙がこれにより生じた損害を賠償する責任を一切負わないことをあらかじめ承諾するものとする。ただし、解約及び削除の対象となるSNS等が課金を伴う場合、甲は乙が利用料金の滞納を原因とする解除の方法によって契約を終了させる可能性があることをあらかじめ承諾するものとする。

② 【デジタルデータの削除】

第〇条 甲は、乙に対し、甲が指定するデジタルデータの削除に関する手続を委任する。

- 2 甲は、乙に対し、前項のうちインターネット上に保存されているデジタルデータについて、サービス名及びアカウントを特定するに足る情報、ログインID及びパスワードその他のログイン・削除の各手続に必要な情報を別紙書面で提示しないし提供するものとし、これらの情報に変更があったときは、速やかに変更後の情報を提示しないし提供するものとする。
- 3 甲は、乙に対し、有体物に保存されているデジタルデータについて、対象機器及び対象機器の所在地等を特定するに足る情報、ログインID及びパスワードその他のログイン・削除の各手続に必要な情報を別紙書面で提示しないし提供するものとし、

フローチャートを交え、段階ごとに手続のポイントを解説!!

死後事務委任契約 相談対応マニュアル

— 契約の提案から締結・履行、事務の終了まで —

編集代表 尾島 史賢 (弁護士・関西大学大学院法務研究科教授)

編集委員 溝上 絢子 (弁護士)
仲谷 仁志 (弁護士)

◆葬儀の実施、契約の解除や費用の精算のほか、デジタル遺品・ペットに関する手続など相談者の多様な要望に対応しています。

◆遺言、財産管理契約、法定後見制度、任意後見契約との関係にも触れて解説しています。

◆契約書条項例や各種届出・通知書等の書式を掲載しています。

B5判・総頁244頁
定価4,730円(本体4,300円)送料460円
ISBN978-4-7882-9391-5

電子書籍も新日本法規 WEB サイトで発売!

〈電子版〉定価 4,290円(本体3,900円)

※閲覧は、ストリーミング形式になりますので、インターネットへの接続環境が必要です。

誤解・誤認による「思わぬ不具合」を防ぐ!

実務家が陥りやすい 死後事務委任契約の落とし穴

編集代表 尾島 史賢 (弁護士・関西大学大学院法務研究科教授)

編集委員 溝上 絢子 (弁護士)
仲谷 仁志 (弁護士)

掲載内容

A5判・総頁202頁
定価2,750円(本体2,500円)送料410円
ISBN978-4-7882-9237-6
〈電子版〉 定価2,530円(本体2,300円)

はじめに

第1章 死後事務委任契約締結時の落とし穴

第2章 死後事務委任契約履行時の落とし穴

第3章 死後事務委任契約終了時の落とし穴

詳細はコチラ!



詳細はコチラ!



0120-089-339 (通話料無料)
受付時間 9:00~16:30 (土・日・祝日を除く)
WEBサイト <https://www.sn-hoki.co.jp/>



